

震災ノ米穀ニ及ボセル影響ニ付照會ノ件 (大正13年)



農務課所管「穀物検査」のなかに綴られている書類です。

内容は、大正13年7月25日付けで、農商務省食料局長から知事あての関東大震災誌編纂のため照会文書です。

- ・ 玄米御売相場・白米小売相場・定期米相場
- ・ 震災ノ米ノ移動ニ及ボセル影響
- ・ 震災ノ米取引ニ及ボセル影響
- ・ 震災関係ニ基キ道府懸組合其ノ他ニ於テ米穀ノ販賣其ノ他取扱上特ニ施設セル事項
- ・ 其他震災ノ米穀ニ及ボセル主ナル事項

項目からなっています。

玄米御売相場

震災直前は石31円だが、9月3日に騰貴し33円、9月4・5日には34円に昂騰、その後も暴騰の気運を示したが、非常徴発令、暴利取締令の発令に続いて防穀令解禁等により7・8日には急転直下30円台を回復した。

白米小売相場

震災前、佐賀市内では石36円で販売していた。9月5日2円昂騰し、11日

まで継続したが米相場の下落に伴い12日には震災前と同値に回復した。9月下旬には35円の安値を示し、その後影響は認められない。

定期米相場

佐賀米穀取引所では、震災前の8月上旬35円台だったが下旬には31円台まで落ち込んだ。震災発生と共に9月4日まで立会中止、再開された9月5日は33円88銭の高値相場になったが、8日非常徴発令・防穀令解除の発表を受け、急遽30円台に引き戻された。その後、暫時低落し、9月18日以降は25円台と意外な安値相場を現わし10月中旬まで継続した。震災の影響は間接的だった。

出回事情

震災直後は米価の思惑高からの売り惜みで、出回米は一時的に激減したが、9月中旬からは平常に戻った。

滞貨事情

震災による貨車不足のため自然滞貨となり、県内の主要集散地では通常より5百トンから1千5百トン、最盛期1,2月は2千トンから2千5百トンの滞貨となったが、4月頃から貨車不足も解消し5月中旬からは平常に戻った。

以上のとおり、震災直後の数日間は米価は高騰しましたが、非常徴発令、暴利取締令、防穀令解禁等により、米価の高騰は避けられました。半面、交通機関の影響は相当あったようです。

